

令和三年度 入学式 式辞

立山連峰の残雪から抜き出してきたかのような真白な辛夷の花が咲く、春爛漫の季節を迎えました。

本日、新入生の門出を祝い、立山町教育委員会 教育長 大岩 久七 様のご臨席を賜りますとともに、保護者の皆様のご列席をいただき、ここに令和三年度入学式を挙行できますことを、厚く御礼申し上げます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございませう。在校生、教職員一同、心から歓迎します。

新型コロナウイルス感染予防のため、在校生は教室のモニターで生中継を見ながらの参加となりましたが、新入生二百十三名を加え、全校生徒六百六十五名が揃いました。ここに、令和三年度の雄山中学校がスタートします。

七十四年の歴史と輝かしい伝統を有する本校は、県下に名だたる文武両道の名門中学校です。皆さんの先輩方は、学業に部活動に精励し、大きな成果を残してこられました。次はいよいよ皆さんが雄山中学校の伝統を受け継ぐ番です。二、三年生と協力し、「生徒の手による学校づくり」を力強く進めて、雄山中学校の名をますます高めていってください。

さて、現在も世界で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症は、私たちの日常を一変させ、学校生活からも多くの「あたりまえ」を奪っていきました。いまだ先の見通せない状況は続いています。人類の英知を結集したワクチンの開発や国を超えた提供等、世界が一つになって情報を共有し互いに知恵を出し合うことで、少しずつ出口が見えかけています。しかし、今後、コロナ収束後も、世の中はさらに複雑化し、変化の激しさはますます加速していくことでしょう。私たちが経験したことのない困難が、次々にやってくるかもしれません。皆さんが大人になり社会人となる十年後、二十年後の世界は、一体どうなっているのでしょうか。これからの私たちは、社会の変化を予測しつつ、どんな状況になっても、冷静に柔軟に対処できる力を身に付けていなければなりません。

では、どこで、どのようにして、社会の変化に押し流されない力を身に付けるのか。それこそが、これから皆さんが雄山中学校で学ぶことの意味です。授業や家庭学習を通して「確かな学力」を身に付けること、読書に親しんで「知識と教養」を高めること、新聞を読んで世の中を知り社会の在り方について考えを深めること、このような学びの積み重ねが、人生百年時代を支える「人生の基盤」となり、皆さんの明るい未来を切り拓く力となっていきます。

本校が目指す姿は「明るい学校」「楽しい学校」「美しい学校」であります。今日から、全校生徒が力を合わせ、理想の学校の実現を目指して、取り組んでいってください。実現を目指すその取組の中に、皆さん一人一人の確かな成長があるのです。富山県の多くの学校で校歌に歌われている立山連峰。その富山県の象徴である山の名を戴く校名に恥じない、県下最高峰の学校を目指して、みんなががんばっていきましょう。教職員一同、力を合わせて、皆さんの限りない成長を支えたいと思っています。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございませう。今日から、私たち教職員は、一人一人のもつ可能性を伸ばし、これからの社会を生き抜く力を身に付けるための教育に、全力で取り組んで参ります。ご家庭におかれては、お子さまを大切に見守るとともに、特に親子の語りを通して適切な助言をお願いします。体は大きくなっても、中学生はまだまだ発達の途上です。その事実を共有し、自主性を尊重しつつも、教えるべきことはきちんと教え、躡けるべきところはためらうことなく躡ける。それが本物の自立につながります。また、家庭と学校が同じ目線で子供の成長を見守り、その成長を喜び合う。そんな協力関係の上で子供は安心してがんばることができます。家庭教育と学校教育は車の両輪。今後の連携と協力を、よろしく願いいたします。

立山町に唯一つの中学校、雄山中学校の教育を、地域・保護者の皆様との固い信頼関係の上に大切に築き上げていきたいと考えております。今後とも本校教育へのご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。

令和三年四月八日

立山町立雄山中学校 校長 高瀬 知郎